

海外食料需給レポート

(2021 年 4 月)

令和 3 年 4 月 2 8 日

農 林 水 産 省

海外食料需給レポートについて

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

このレポートは、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報（生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等）について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

5 本レポートに記載のない情報は以下を参照願います。

(1) 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・食料需給見通し(農林水産政策研究所)：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

(2) 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

(3) その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関（FAO）：<http://www.fao.org/home/jp/>
- ・国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<http://www.oecd.org/agriculture/>
- ・農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関(代表的なものです)

- ・米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・カナダ農務農産食品省（AAFC）：<http://www.agr.gc.ca/eng/home/?id=1395690825741>
- ・豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

目 次

概要編

I	2021 年 4 月の主な動き	1
II	2021 年 4 月の穀物等の国際価格の動向	2
III	2020/21 年度の穀物需給（予測）のポイント	2
IV	2020/21 年度の油糧種子需給（予測）のポイント	2
V	今月の注目情報 米国の 2021 年産の作付けと生産を取り巻く状況	3

（資料）

1	穀物等の国際価格の動向	6
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	7
3	令和 2 年 10 月以降の食品小売価格の動向	8

品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
2	とうもろこし	8
3	コメ	13
II	油糧種子	
	大豆	19

【利用上の注意】

(概要編)

I 2021 年 4 月の主な動き

1 史上最高を更新するブラジル大豆生産・輸出

3 月に入り、作付け遅れと収穫期の降雨で遅れていた大豆の収穫が本格化した。主産地の中西部のマトグロッソ州では収穫は 3 月末でほぼ終了、南部のリオグランデドスル州では 4 月 8 日時点で収穫率は 39%、パラナ州では 4 月 12 日時点で 98%となっている。

一方、大豆の生産見通しは、リオグランデドスル州の作柄の改善等から上方修正され、ブラジル食料供給公社（CONAB）の穀物レポート（2021.4.8）によると 3 月よりさらに上方修正され、1 億 3550 万トンと史上最高の見通し。

なお、輸出については、米国農務省（USDA）によれば、ブラジルの 3 月の大豆の輸出量は、1,350 万トンと過去最高だった 2020 年 3 月の 1,090 万トンをぬりかえた。

2 中国の穀物備蓄と伸びる飼料用小麦・コメ需要

中国の小麦の飼料用需要は、前年 11 月以降、USDA の需給報告において 6 か月連続で上方修正され、4 月見通しでは前年度の倍以上の 4,000 万トンが見込まれている。とうもろこしの価格高騰に伴い、飼料用向けに国内の備蓄の小麦が競売で放出されたことが要因。

コメについても、飼料用向けにインド産碎米等の輸入が行われているとみられる。

なお、中国国家糧食物資備蓄局の 4 月 2 日の記者会見等によれば、中国のコメや小麦の在庫は需要の 1 年分以上あり、仮に飼料用需要が増えても需給に大きな影響はないとしている。

写真：節間成長期の冬小麦 山東省
降雨に恵まれ生育は順調
（4 月 8 日撮影）



3 干ばつ被害を受けた台湾と史上最高の豊作のフィリピンのコメ

台湾の 2020/21 年度のコメ生産は 56 年ぶりともいわれる干ばつの影響を受け、USDA によれば、前年度比 23%減の 90 万精米トンの見通し。台湾では 2020 年は 1964 年以来、初めて台風の到来がなく、中部と南部の灌漑用水の貯水量は平年の 20% 以下となっていた。台湾では主にジャポニカ（短粒）種が栽培されている。

一方、台湾の南に位置するフィリピンでは対照的に、2020/21 年度は前年度より 4% 増で史上最高の 1240 万精米トンの豊作となる見通し。政府の自給率向上に向けた「Plant Plant Plant Program」で種子の品質向上や機械化が進展し作付面積が増加したことに加え、降雨に恵まれたことも要因。フィリピンでは、長粒種が栽培されている。

Ⅱ 2021 年 4 月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、3月末、220ドル/トン台後半で推移。3月31日発表の米国作付意向面積報告による大豆、とうもろこしの価格上昇に追随し値を上げた以降も、米国春小麦産地での乾燥天候による作付けへの影響懸念や、米国冬小麦産地の低温・乾燥天候による生育への影響懸念から値を上げ、4月下旬現在、240ドル/トン台後半で推移。

とうもろこしは、3月末、220ドル/トン台前半で推移。3月31日発表の米国作付意向面積報告が市場予想を下回ったことからストップ高を付けて以降、米国产とうもろこしの好調な輸出成約と低水準なエタノール在庫に加え、中西部の低温による作付け、生育への影響懸念から値を上げ、4月下旬現在、240ドル/トン台半ばで推移。

コメは、3月下旬、520ドル/トン台半ばで推移。4月に入り、乾季米の新穀の市場流通による国内価格の低下、旧正月を控え低調な輸出需要、パーツ安から値を下げ、4月下旬現在、500ドル/トン前後で推移。

大豆は、3月末、520ドル/トン台後半で推移。3月31日発表の米国作付意向面積報告が市場予想を下回ったことからストップ高を付けた後、4月9日の米国農務省穀物等需給報告でのブラジル産大豆の豊作見通し等により下落も、4月中旬以降、中西部の低温による作付け、生育への影響懸念から再び値を上げ、4月下旬現在、550ドル/トン前後で推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場、米はタイ国家貿易委員会価格

Ⅲ 2020/21 年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前月から 60 万トン上方修正され 27.3 億トン。消費量は、前月から 1,010 万トン上方修正され 27.5 億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

また、期末在庫率は前年度を下回り 28.7%となる見込み（資料2参照）。

生産量は、前月と比較して、小麦、コメで下方修正も、とうもろこしで上方修正され、穀物全体で上方修正され 27.3 億トンの見込み。

消費量は、前月と比較してコメで下方修正も、小麦、とうもろこしで上方修正され、穀物全体上方修正され 27.5 億トンの見込み。

貿易量は、コメで下方修正も、小麦、とうもろこしで上方修正され、4.8 億トンの見込み。

期末在庫量は、7.9 億トンと前月より下方修正され、期末在庫率は前年度を下回る。

(注：数値は4月の米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

Ⅳ 2020/21 年度の油糧種子需給（予測）のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り 6.0 億トン。消費量は前年度を上回り 6.1 億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

なお、期末在庫率は前年度を下回り、16.5%となる見込み。

(注：数値は4月の米国農務省「Oilseeds : World Markets and Trade」による)

V 今月の注目情報:米国の2021年産の作付けと生産を取り巻く状況

米国の2021年産の作付意向調査が3月末に公表され、小麦、大豆は増加も、とうもろこしは微増にとどまった。一方、2020/21年度の需給はとうもろこし、大豆とも輸出が史上最高と見込まれること等から期末在庫がタイトとなっている。現在、大豆やとうもろこし、春小麦は作付期を迎えている。最近の状況をまとめた。

1 2021年産の作付け動向

(1) 期末在庫率と作付意向調査

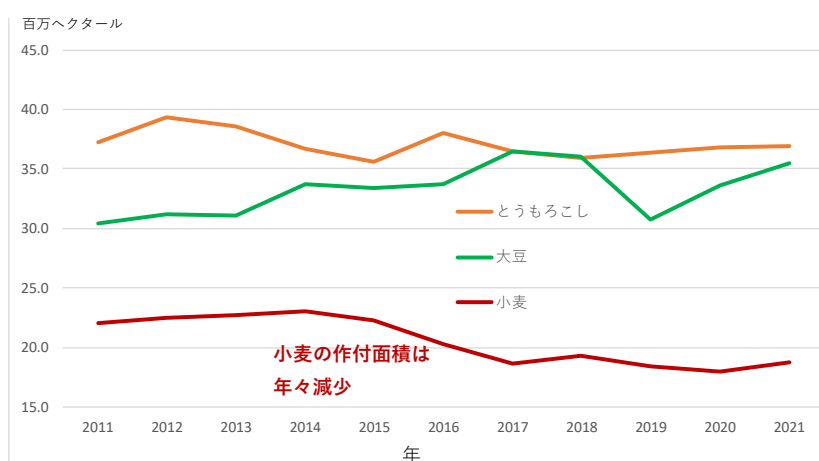
3月31日に公表されたUSDAの作付意向調査では、前年と比較して、冬小麦の作付面積が増加し、1月時点の予測を上回り、前年度より8.8%増の1,339万ヘクタールとなった。一方、デュラムを含む春小麦は、同時期に作付ける大豆、とうもろこしの価格が高水準で推移している4.7%減の539万ヘクタールとなっている。小麦合計では冬小麦の面積の増加が貢献し、1,876万ヘクタールで前年度より4.5%増となっている。

大豆は、米国の期末在庫率が2.6%（2021年3月時点）と低いため、作付面積は前年度より5.4%増の3,545万ヘクタールとなった。

とうもろこしは、米国の期末在庫率が10.3%（同）と低水準ながらも大豆よりは高いこともあり、前年度より0.4%増の3,689万ヘクタールにとどまった。

大豆、とうもろこしとも市場予測を下回ったため、3月31日のシカゴ相場の大豆、とうもろこし相場はストップ高となった。

図1 小麦、とうもろこし、大豆の作付面積の推移（2021年は意向調査）

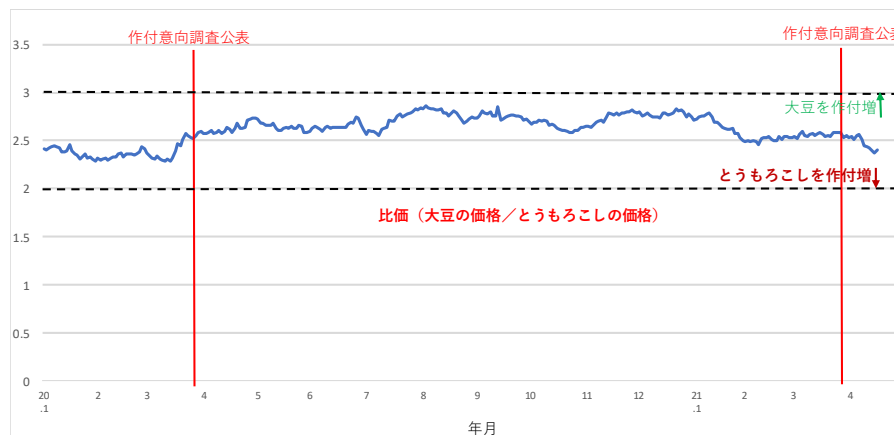


出典：米国農務省「作付意向調査」（2021.3）ほか

(2) 比価との関係

単収やローンレートとの関係もあり、大豆ととうもろこしの相場価格の比の値（比価）が3に近いほど大豆の作付けが増え、2に近いほどとうもろこしの作付けが増加するともいわれている。前年の3月以降、比価

図2 シカゴ相場的大豆／とうもろこしの比（期近物で比較）の推移



が2.5を超えたため、作付意向調査以降、前年は大豆の作付けが増加した。本年の作付意向調査公表以降、4月に入り、比価が2に近付き始めているので、とうもろこしの作付けが作付け調査以上に今後増加する可能性があると思われる。

2 2020/21 年度の需要、輸出動向

(1) 小麦

消費量は 3,070 万トン、輸出量は 2,680 万トンと前年度を上回っている。4 月については、前月予測から大きな変更はなかったが、輸出については、中国国内のとうもろこしの価格高騰により小麦の飼料向けの代替需要が増加したことから、中国向け小麦の輸出が増加していることも背景にあるとみられる。その結果、期末在庫量は 2,320 万トンと前年度より減少しているが、期末在庫率は 40.3%と比較的高水準を維持している。

(2) とうもろこし

3 月のガソリン生産量の増加によるエタノール向け需要の上方修正、2020/21 年度の第 2 四半期の飼料用需要増加、家畜の飼養頭数が高水準なこと等による飼料用需要の上方修正から、需要は 190 万トン上方修正され、3 億 740 万トンの見込み。

また、輸出については、米国の穀物年度（10－9 月）内のブラジルやウクライナの輸出の下方修正により、米国産が代替されるため、輸出需要は 190 万トン上方修正され、史上最高を更新する 6,800 万トンが見込まれている。

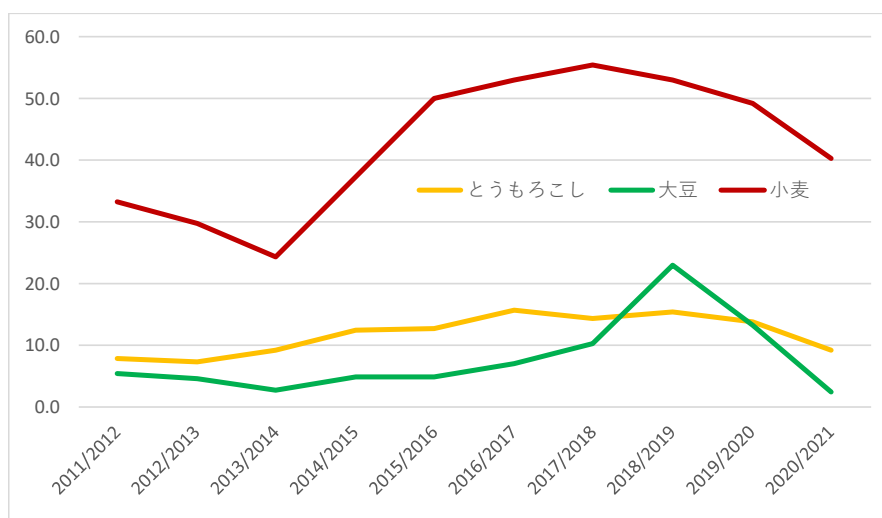
この結果、米国のとうもろこしの期末在庫は、380 万トン下方修正され 3,430 万トンで期末在庫率は 9.2%と 2013/14 年度以来 10%を下回った。

(3) 大豆

搾油需要、種子用、その他需要合計で 80 万トン下方修正され、6,250 万トンの見込み。

一方、輸出需要が 80 万トン上方修正され、6,210 万トンで史上最高となっている。2020/21 年度の 9 月から 2 月までの輸出ペースは 5,420 万トンと史上最高で、2 月の輸出量の 457 万トンも 2015/16 年度以来の最高値となっている。なお、9 月から 2 月まで輸出のうち、中国向けは 3,460 万トンとなっている。この結果、期末在庫量は 330 万トン、期末在庫率は 2.6%で 2013/14 年度以来の低水準となっている。

図3 米国の小麦、とうもろこし、大豆の期末在庫率の推移



出典：米国農務省「PS&D」（2021.4）

3 世界の穀物需給への影響

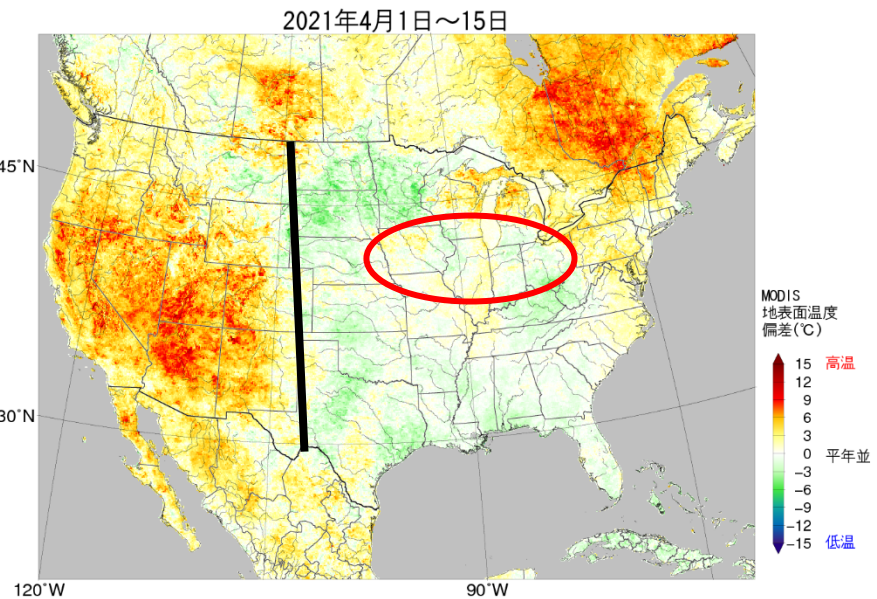
米国のとうもろこしや大豆の作付面積は、市場予測を下回ったといわれているが、作付けを決めかねており、価格の下落を避ける意図で、作付意向調査において面積を少なめに報告した農家もあるのでないかとみている業界関係者もいる。現在、中国の穀物の輸入需要が旺盛なことから、とうもろこしや大豆の国際価格が前年同時期と比較して高水準で推移しており、米国の期末在庫水準も前年度と比べ低水準であることから、いずれは大豆やとうもろこ

しを作付けすると業界関係者は見ている。

今後、米国ではとうもろこしや大豆、春小麦、コメの作付けが本格化する。4月中旬現在、米国西部では高温が続いており、一方、中西部から東部にかけて低温傾向となっている。中西部で長期間この傾向が継続すれば、とうもろこしや大豆の作付け遅れの懸念が生じる。このため、引き続き米国の作付期の天候に注視していく。

図4 米国の地表面温度の平年との偏差

赤丸はコーンベルト。温度は西高東低となっている。



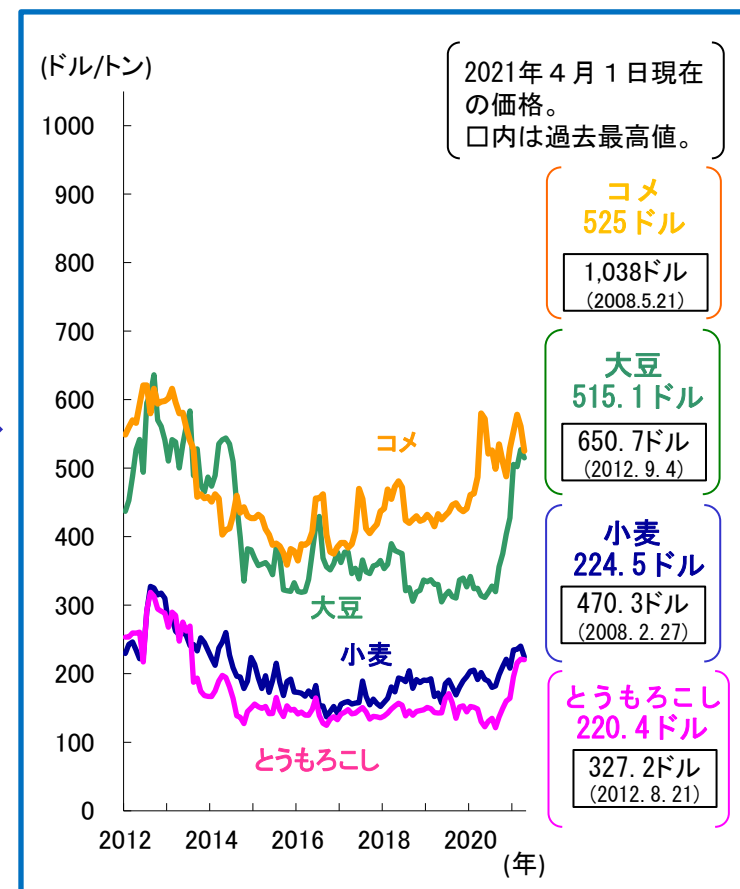
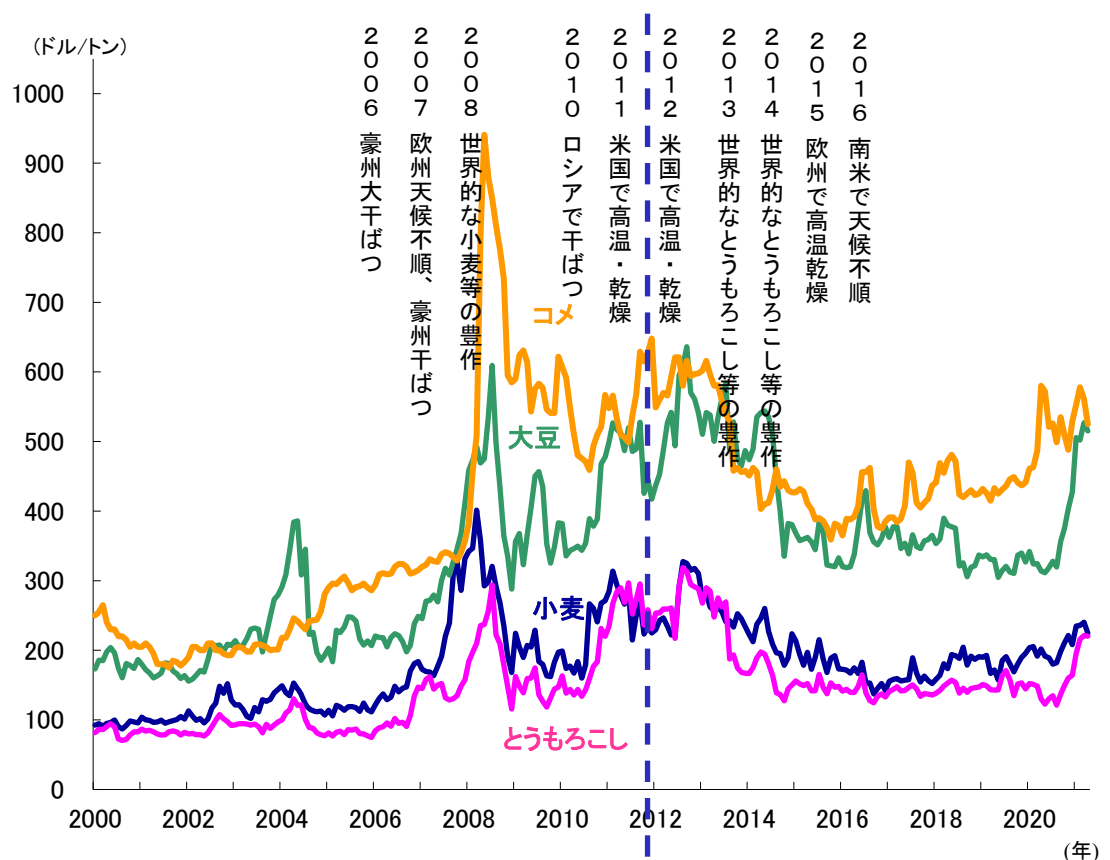
資料：農林水産省「農業気象
情報衛星モニタリングシ
ステム」
(JAXA「地表面温度偏差
プロダクト」を加工して
作成)

資料 1 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

○とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2017年以降ほぼ横ばいで推移も、2020年後半から南米の乾燥懸念、中国の輸入需要の増加等により、大豆を中心に上昇。コメは、2013年以降低下したが、2020年ベトナムの輸出枠の設定等により3月末から上昇。同年4月末の輸出枠の解除等で下落も、依然として高止まり。

○なお、穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要により、2008年以前を上回る水準で推移している。

□ 穀物等の国際価格の動向



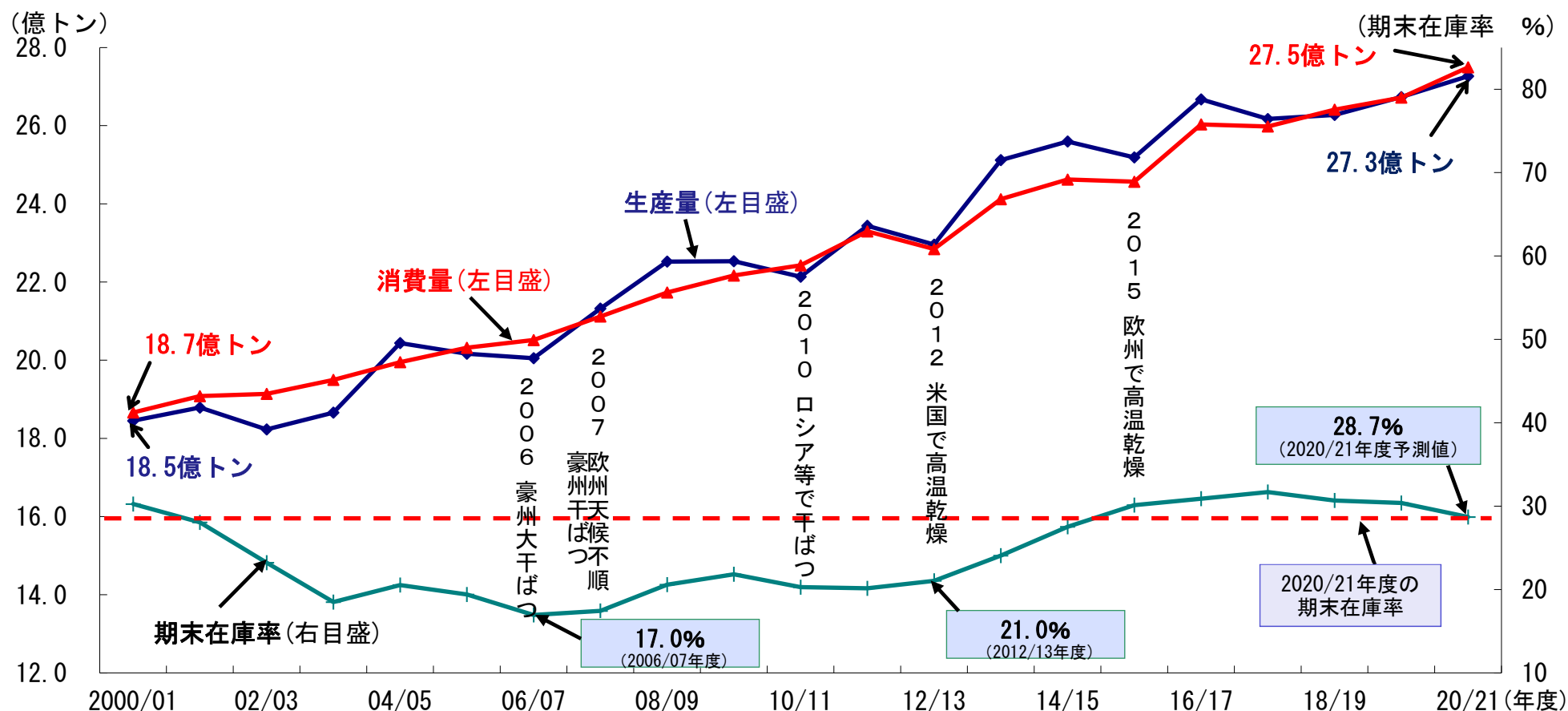
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格（セツルメント）である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。なお、コメは、3月31日の価格。コメ以外は、2021年4月2日（金）が休場のため、4月1日の価格。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2020/21年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2020/21年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回り、前年度より低下し、28.7%。直近の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(April 2021)、「PS&D」

(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料3 令和2年10月以降の食品小売価格の動向

○ 加工食品の国内の食品小売価格については大きな値動きはなし。

令和2年10月～令和3年3月の 食品小売価格の動向

消費者物価指数(総務省)												
	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R2			R3			
品目	平均	平均	平均	平均	平均	10月	11月	12月	1月	2月	3月	上昇率 (前年 同月比)
生鮮食品を 除く総合	99.7	100.2	101.0	101.7	101.5	101.3	101.2	101.1	101.4	101.5	101.8	-0.1%
食パン	101.1	100.9	101.4	102.3	101.2	101.0	100.7	100.4	100.4	100.2	99.9	-1.3%
即席めん	100.0	99.5	99.0	102.4	103.9	103.5	104.1	102.8	104.1	104.4	104.0	-0.4%
豆腐	100.0	100.5	100.7	101.0	101.9	102.7	102.9	102.9	102.4	102.7	103.0	1.6%
食用油 (キャノーラ油)	97.8	94.5	93.3	92.8	92.0	91.9	91.8	91.0	91.3	91.0	90.3	-2.0%
みそ	99.4	99.1	99.6	101.4	102.3	103.0	102.3	100.5	101.2	102.0	102.5	0.1%
チーズ	99.3	98.8	102.6	102.9	101.7	102.2	101.9	100.7	101.4	102.0	101.2	0.0%
バター	101.5	101.7	102.0	102.3	102.4	103.1	102.8	102.3	102.3	102.4	102.2	0.0%
マヨネーズ	98.1	96.7	95.3	95.1	94.5	94.4	94.6	93.2	93.8	94.6	94.8	1.0%

資料: 総務省消費者物価指数

注1: 平成27年の平均値を100とした指数で表記している。

【参考】令和2年10月～令和3年3月の 食品小売価格の動向

食品価格動向調査(農林水産省)														
	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R2			R3					
品目	平均	平均	平均	平均	平均	10月	11月	12月	1月	2月	3月	上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)	
食パン	100.9	99.5	99.8	103.2	101.9	101.6	101.6	101.4	101.2	101.6	101.6	0.0%	0.0%	
即席めん	99.8	99.6	99.5	105.3	107.6	106.5	107.2	106.5	106.5	107.2	107.2	0.0%	-0.6%	
豆腐	96.9	95.6	95.0	95.7	94.8	93.9	93.9	94.3	94.7	96.3	93.9	-2.6%	-1.3%	
食用油 (キャノーラ油)	96.3	94.6	94.6	100.1	96.7	95.9	96.2	95.3	95.0	94.0	93.7	-0.3%	-3.2%	
みそ	99.8	101.6	106.8	111.0	110.5	109.6	109.9	108.5	109.4	111.0	109.9	-1.0%	-0.6%	
チーズ	100.0	99.7	103.2	105.7	104.8	105.3	105.3	104.8	104.8	105.8	104.8	-1.0%	-0.5%	
バター	101.3	102.0	102.3	102.7	103.3	103.2	103.2	103.2	103.4	103.2	103.4	0.2%	0.4%	
マヨネーズ	99.2	98.4	97.2	102.4	99.3	98.3	98.0	98.0	98.3	98.3	98.0	-0.3%	-2.0%	

資料: 農林水産省 食品価格動向調査(加工食品)

注1: 平成27年の平均値を100とした指数で表記している。

注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で週1回実施。ただし、平成30年10月以降は月1回実施。

注3: 調査結果は調査期間中の平均値で算出。

注4: 令和3年1月の調査は、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県での調査を中止し、2月の調査は東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、大阪府、京都府、兵庫県、愛知県、岐阜県、福岡県で、3月は東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県での調査を中止したことから、それぞれ前月の値とは接続しない。

また、令和2年4月の調査は、東京都、大阪府、埼玉県、千葉県、神奈川県、兵庫県、福岡県で、5月の調査は東京都、大阪府、北海道、茨城県、埼玉県、千葉県、神奈川県、石川県、岐阜県、愛知県、京都府、兵庫県、福岡県で調査を中止し、6月の調査は全国で再開したことから、それぞれ前月の値とは接続しない。